

ひとみ

発行
相生市教育委員会
(人権教育推進室)
電話 23-7145
令和3年2月号
(第48号)

【インターネットと人権】

情報化の進展によるスマートフォンやパソコンの普及は、SNSやインターネットを利用したコミュニケーションの輪の広がりを私たちにもたらし、様々な情報の収集と発信を可能にしました。しかし、その一方インターネット上で、特定の民族や国籍の人々を排斥しようとするヘイトスピーチ、部落差別等の同和問題に関して差別を助長するような書き込み、子どもをターゲットにした有害情報の掲載や児童ポルノ動画・画像の流出などが問題になっています。法務省の人権擁護機関の「人権侵犯事件」に対する取組状況の中で「インターネット上の人権侵犯」は、令和元年に1,985件（前年比3.9%増加）発生しています。また、新型コロナウイルス感染症が確認されて以来、インターネット上でも感染者・濃厚接触者、医療従事者やその家族などへの誹謗中傷・差別的な書き込み、個人のプライバシーを無視した情報公開、ウイルスに関する根拠のない情報の拡散などが問題になっています。兵庫県が実施した「県民の人権意識調査」のインターネットに関する人権問題について、以下のグラフのような結果となっています。ご覧になってどう感じられるでしょうか。

※SNS：インターネット上で、他者とのやりとりなど、つながりを作り出すサービス

「インターネットを悪用した人権侵害について、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか」

他人への悪口や差別的な表現などの掲載

いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと

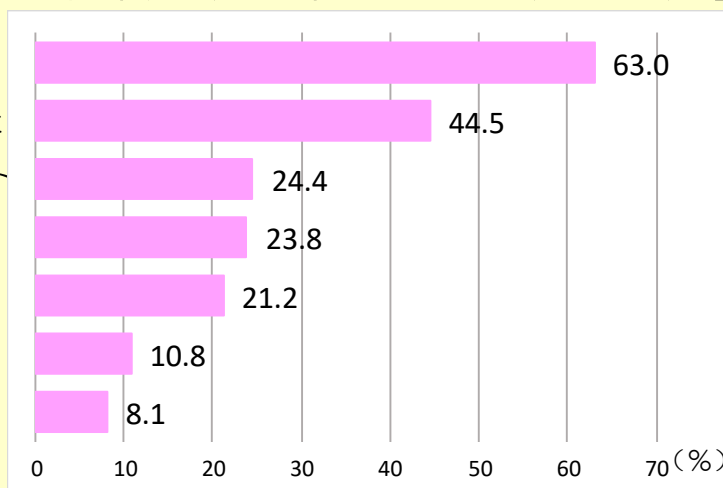
犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどの存在

他人のプライバシーに関する情報の掲載

悪徳商法などインターネット取引による被害

差別を助長するような情報の掲載

ポルノ画像など有害な情報の存在



平成31年3月兵庫県「県民の人権意識調査」より

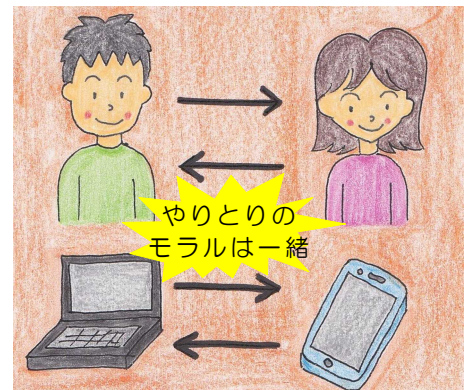
インターネットの利用に伴う人権問題を考える際、情報モラルの意識の不十分さが挙げられます。パソコンや携帯電話でインターネットが利用できるようになって以来、多様なニーズに応えられるよう技術は進んできました。ただ、私たち使い手は、技術を使いこなすことに意識が集中するあまり、情報モラルに対する意識は不十分なままであるとも言われています。誰もがより安全安心に、誰も傷つけない・傷つかない利用方法について、私たち一人一人が考える必要がありますね。



インターネット上で人権侵害をしない、されないために

インターネットの先にいるのは人と人

人を傷つけたり、いじめたり、脅迫したりする行為など、私たちの普段の生活で許されないことは、インターネット上でも許されません。向き合って直接相手に話しかけるときに、相手がどう感じるか考えて言葉を選ぶのと同様のことがインターネット上のやりとりでも求められています。加害者は場合によっては、「名誉毀損罪」「脅迫罪」などの犯罪に問われる場合があります。



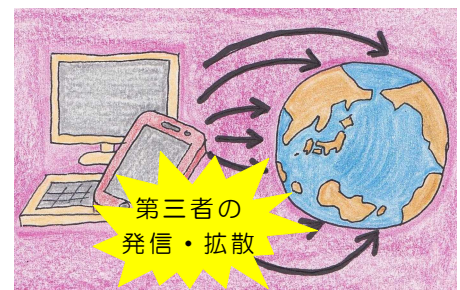
インターネット上には嘘や不確かな情報も

インターネット上では、誰もが簡単に情報を発信できることから、正しい情報と同様に不確かな情報やうわさも広がっていきます。中には相手を傷つけることを目的に発信された情報もあります。情報を発信する側に発信しても良いかの判断が求められることと同様に、情報を受ける側にも、正しい情報なのか、再発信しても良いもののかの判断が求められています。



インターネットの特性（匿名性、拡散性、非対面性など）を理解した活用

みなさんがパソコンやスマホでやりとりする写真や動画、書き込んだ内容は、受け手側も保存可能です。一旦公開された情報は永久に消えないと考えておかないといけません。また第三者が、あなたになり代わって瞬時に世界中に再発信することも可能です。ダウンロードできるアプリの中には、個人情報を取り出すように作られたものもあり、被害も発生しています。インターネットの特性を理解した活用が求められています。



兵庫県ホームページ「インターネットによる人権侵害をなくすために」より

通信技術は、今後ますます進むと考えられます。それに伴い更に便利で多機能のコミュニケーションツールが開発されると思われます。しかし、そのような機器の先にはいつも誰かの存在がある事を考えると、「人と人とのつながり」「相手への思いやり」をコミュニケーションの基本として利用しようとする姿勢が大切です。このことを踏まえて、誰もが情報や技術を有効に活用し、情報化社会を豊かに生きていくことができるといいですね。



まちの人権トピックス

「相生市ケータイ・スマホ教室」

令和2年10月14日～11月25日

市内小中学校

市内小中学生の「ケータイ・スマホ実態調査アンケート(令和2年9月実施)」の結果によりますと、ケータイ・スマホの所持率は、小学4～6年生が49.6%、中学1～3年生が72.8%となっています。

また、タブレットやゲーム機なども含めてインターネットに接続したことがある割合は、小学4～6年生が91.8%、中学1～3年生が96.1%となっています。情報化の浸透は、大人だけでなく子ども達にも進んでおり、子ども達もインターネット上でトラブルに巻き込まれる危険性があると言えます。

そこで、平成27年度から市内小学5・6年生、中学3年生を対象に、ケータイ・スマートフォンやインターネットの利用に関して、トラブル再現動画をもとに学ぶ「ケータイ・スマホ」教室を実施しています。

令和2年度の学習用動画の内容

□ SNSの書き込みの危険性について

クラスの出し物(演劇)の代表となった中学生の花子が、良い出し物にしたいという思いから、SNSでクラスメイトに厳しい指示を出し、誤解によりクラスメイトから仲間はずれにされる。



□ 動画・画像投稿の危険性について

中学生が、SNSのサイトに自分が投稿する動画を、多くの人に関心を持って見てほしいということばかり考え、違法行為(線路への置き石など)を自ら行い、その動画を上げてしまう。

□ SNS上の知り合いの危険性について

中学生が、SNS上で同世代の趣味の合う女の子と仲良くなるが、実は成人の男性が女の子になりすましたもので、送った顔写真がもとで住所を特定され、危うく誘拐されそうになる。

文字だけじゃ、勘違いされやすいよね。



分かっているけど、あまり気を付けてないかな。



こんなに、大変なことになるなんて。

インターネットの問題は、フィルタリングの設定や家庭でのルール作りなど、子どもだけの力で難しいことがあります。私たち大人が子どもたちの安全安心のために何ができるかを考え、子どもとともに取り組んでいく必要がありますね。



令和2年度 相生市内在学の児童・生徒による人権作品の紹介

★人権作文の部 特選受賞者と作品

あいさつの大切さ

青葉台小学校 5年 大森 遥斗

あいさつに対して、自分で意識するようになったのは、三年生くらいからだったように思います。最近は、ずいぶん自分からあいさつができるようになりました。しかし、一、二年生のころは、自分からなかなかできなかったし、特に意識するようになってからも、自分から声を出すのが少しはずかしいなと思う気持ちがありました。でも今は、自然と登下校の時などでも会った人に声をかけられるようになりました。

以前、お母さんに、あいさつについて聞いたら、あいさつには、「自分の心を開いて、人の心に近づく」という意味があると教えてもらいました。また、おもしろいと思ったのは、あいさつの四かじょうでした。それは、「あ」は、明るく、温かく、「い」は、いつでも、だれにでも、「さ」は、先に、進んで、「つ」が、続けて、次の言葉を、という「あいさつ」という言葉にうまく合わせたものでした。お母さんは、このことを社会人になったときに聞いたと言っていました。また、知らない人に対して、自分から、話しかけるときも、必ずあいさつから始まるし、そこから、人との関係も始まると教えてくれました。ぼくは、その話を聞いて、あいさつには、すごく力があるものなんだなと思いました。そういえば、サッカーを習い始めたときも、知らない子ばかりで、友達もいなかったけど、最初にあいさつと、自こしようかいをしたことで、みんなと話せるようになったことを思い出しました。学校の帰り、ぼくが、「こんにちは。」と、あいさつをすると、地いきの人は、「こんにちは。お帰り。」と、笑顔で返してくれたりします。すると、ぼく自身とても気持ちよくなります。

今まで登校班では、五、六年生が先にあいさつをしていたし、ぼく自身、先に言ってくれるだろうと思っていました。でも今年は、ぼくも5年生です。これからは、下級生の手本にならないといけないし、あいさつの大切さも伝えていきたいと思います。

特選受賞者

学 校	学年	氏 名	作 品 名
相生小	1	桃井 唯月	たすけあいっこ
若狭野小	1	大崎 楓	ともだちがふえたよ
那波小	2	グエン ビン ミン	日本にきて 思ったこと
青葉台小	3	溝田 峻人	友だちの大切さ
中央小	4	池田 瑠宇	私にできる事
青葉台小	5	大森 遥斗	あいさつの大切さ
双葉小	6	尾崎 美音	本当のやさしさ
双葉中	1	柳樂 成亮	同和問題に学ぶこと
那波中	2	粉原 咲月	自分らしく 生きるために
双葉中	2	田中 優杏	いじめの空気
双葉中	3	志摩 歩奈	他人を想うあたたかい心



他人を想うあたたかい心

双葉中学校 3年 志摩 歩奈

最近、テレビをつけるといつでも、どの局でも、コロナウイルスの話題が出ています。取材の中で、電車に乗っていた人が咳をしたら睨まれたり、遠ざかられたりして、怖くなって一つ前の駅で降りた、と話していて、私まで怖くなってしまいました。世界の中でも、親切な国で有名な日本のイメージが、コロナウイルスによって神経質で厳しい国にあっていう間に変わってしまったように感じました。もちろん、親切で、前向きな人達もいるし、コロナが収束すればもとの日本に戻ると思いますが、今のままでは人が人を想いやる気持ちはそれぞれちがう方向を向いたままになってしまっています。自分の身は自分で守るのは当然ですが、他人のことも気かけたり、家族にもまめに体温を測るように呼びかけるだけでも、思いやる気持ちは伝わるはずです。

私の母は、スーパーの店員です。毎日、レジでお客さんと接しています。今は、どのお店もレジの前には大きなビニールカーテンやアクリル板で店員とお客さんとを仕切っています。お金も、コイントレーに乗せて直接手に触れないように徹底しているそうです。しかし、はじめは「私が汚いみたい」と言われたり、悲しそうな顔をするお客さんがいたり、逆に、店員を汚い物として接したりする心無い人もいたそうです。

医療に携わる人達が差別を受けたり、コロナ病院、コロナホテルと言われたりしているということも、ニュースで知りました。家族も病院へ毎日通っているのですが、正直、どこ

で病気をもらうかわからないので延期してもらっています。お医者さんや、看護師さんが診てくれないと、持病がある人や急な病気の時に困るのは、私たちです。

役割はそれぞれ違いますが、スーパーの店員をしている母達がいないと、必要品は買えません。そんな母も、弟を預かってくれる幼稚園があるから働けています。たくさんの人達が、互いを想い合っているのがよく分かります。毎日毎日、マスクを外せない日々が続いて、目に見えない敵と常に戦っています。私の自粛期間は中学生らしい生活を送ろうと決め、掃除、洗濯、料理、勉強を気付いたときにして過ごしていました。ときどき、外出したくなりましたが、家族に高齢の祖父母や、まだ小さい弟がいるので、必要最低限の外出以外はまったくと言っていいほどしていません。

でも、そんな毎日でも、休めずに働いている方たちは、たくさんいらっやいます。国民や、大切な人を守るために頑張っている人を言葉で傷つけたり、心無い軽率な発言で、間違った正義感を振りかざして自分一人だけ良い気にならないでください。間違った価値観を押しつけないでください。

先の見えない、暗い道を少しずつ歩んでいるような現状で、私も不安ですが、互いを想い合って、助け合う努力を続けていけるようになりたいです。言葉の暴力で傷つく人がいなくなる世の中になれますように。



★人権ポスターの部 特選受賞者と作品



中央小1年 南淵 凜



中央小2年 福澤 晴美



矢野小3年 相原 力翔



中央小4年 竹原 梨央



青葉台小5年 平田 優花



相生小6年 石中 亜沙美



双葉小6年 高見 日菜



双葉中1年 松岡 月海



双葉中2年 利根 彩加



矢野川中1年 岡野 陽菜乃



那波2年 井上 ここな



双葉中3年 安藤 誠富



双葉中3年 毛利 暖



矢野川中3年 石原 歩性

★人権標語の部 入選受賞者と作品

「いっしょに遊ぼう」	一人でいたら	声かけよう	相生小	5年	金谷 杏
その言葉	相手を救う	第一歩	那波小	5年	川崎 蘭
広げよう	手と手をつなぐ	絆の輪	双葉小	5年	三浦 亜実
だいじょうぶ	そのひとことが	だれかをすくう	若狭野小	5年	寺田 詩菜
バスの中	席をゆずって	いい気持ち	矢野小	5年	鈴木 千織
さし出そう	小さな手でも	大きな心で	青葉台小	5年	香月 あおい
思いやり	友の心のとびらひろく	カギとなる	中央小	5年	副島 愛海
何気なく	投げた言葉が	傷の元	相生小	6年	宮崎 梨瑠
話してごらん	きっと届くよ	君の声	那波小	6年	前田 亜月紗
責任もてる？	自分の言葉と	その行動	双葉小	6年	丸山 祐史
悲しむな	だってぼくたち	なかまだろ	若狭野小	6年	小林 夢輝也
泣かないで	こまった気持ち	教えてよ	矢野小	6年	竹山 駈

SNSでは伝わらない 目と目を合わせて 話そうよ	青葉台小	6年	井上 和哉
言葉がね 一番心に キズはいる	中央小	6年	國本 望
悪口は銃弾 人の心を 突き破る	那波中	1年	宮本 日菜乃
いけないよ 言える勇気と 聞く勇気	双葉中	1年	刈野 幸元
「挨拶」は 笑顔を増やす愛言葉 みんなで広げろ 相生に	矢野川中	1年	相原 由翔
言葉ってね 何で消そうと 消えないんだよ	那波中	2年	花高 亜実
考えよう 発した言葉の その意味を	双葉中	2年	松下 愛梨
一つの言葉で変わる未来 一つの言葉で変わる世界	矢野川中	2年	西脇 洸生
その書き込み 誰かの役に立っている?	那波中	3年	盈 優真
コロナで生まれた 新たな差別 世界で取り組む 新たな課題	双葉中	3年	下田 律
せめるより 許す心と 思いやり	矢野川中	3年	宇久 凌矢



「まちかどじんけん特派員」からのお願い

「つながりに感謝」

退職を機に、何か地域のためにできることはないかと思い、登校や通勤の時間帯に玄関先に出て、あいさつをするようにしました。体調の悪い日や用事のある日などあるので、毎日というわけではありませんが、無理のない範囲で続けています。元気よく自分から挨拶してくれる子、こちらから挨拶すると応える子、黙ったまま通り過ぎる子、本当に様々です。同じ子でも日によって様子が変わり、「今日は、朝からおうちの人に怒られたのかな。」などと思いながら見送っています。子ども達の他にも、軽く会釈をしていくドライバーさん、電車の時間があるのか駆け足の高校生など、多くの方と挨拶の輪が広がっていきました。

様子が変わったのは昨年度末でした。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言、学校の長期の休校。朝、子ども達の元気な姿を見ることもなくなりました。そして、学校が再開されることになって、「しばらく挨拶していないし、またこちらから声を掛けないと挨拶してくれないかな。」と思っていました。玄関を出てしばらくすると、わたしの背後から子ども達の「おはようございます。」の聲がしました。わたしは、子ども達に挨拶を返しながら、「人のつながりって、すばらしいなあ。」と感じました。

〈市内在住 60代男性より〉

「ひとみ11月号」のご意見・ご感想

たくさんのご応募ありがとうございました。応募者（正解者）の中から抽選により、「2021こころカレンダー」をお届けしました。また、たくさんの「ご意見」「ご感想」をありがとうございました。今後の参考とさせていただきます。

「ひとみ11月号」
人権クロスワード
パズルの答え
「ありがとう」

- ・男女の考え方について、まだまだ固定的な意識が残っていると思いました。まだまだ改善できる部分はあると思います。
 - ・DVについては、普段の何気ない言葉や行動からでも起こることなので、よくよく気を付けないといけないと思いました。
 - ・今年はコロナ禍で、DVが従来より増え、多くの被害者が出ていると聞きます。DVの被害の方が、DVを受けていることが分からず過ごしていることや相談窓口が書かれているところが良かったです。
 - ・過去に風評によって多くの人たちに被害が出ていることは知っていました。コロナ禍による風評被害が少なくなることを願っています。
 - ・「ひとみ」で今の人権問題について分かり勉強になります。コロナウイルスが流行っているので、正しい情報をしっかり得て、間違った情報をうのみにしないようにしたいです。
 - ・いろいろな情報が取り上げられており、毎回楽しみにしています。
- ※DV：配偶者や恋人の関係にある、又はあった者から振るわれる暴力